

取組・評価書（住宅以外の用途）

第1 環境への配慮のための措置及びその取組状況の評価

分野	区分	細区分	取組状況		取組状況の評価												
			概要	詳細（容量、仕様、規模等）	段階	適合状況	配点	評価									
								評点	最高点								
エネルギーの使用の合理化	I 建築物の熱負荷の低減	建築物の形状・配置 外壁・屋根の断熱 窓部の熱負荷の低減	① 建築物の形状及び配置に係る事項(例 熱負荷の低減に配慮した建築物の形状及び各室の配置計画) 〔 〕			1	0			()							
			② 外壁及び屋根の断熱に係る事項(例 優れた効果を有する断熱材及び仕上げ材) 主たる外壁〔 〕 屋根〔 〕		(1) 主たる外壁の仕様 位置及び方位〔 〕 断熱材〔 〕 厚さ〔 mm〕 熱貫流率〔 W/m ² ・K〕 (2) 屋根の仕様 断熱材〔 〕 厚さ〔 mm〕 熱貫流率〔 W/m ² ・K〕							2	1				
			③ 窓部の断熱に係る事項〔例 ペアガラス、ダブルスキン、エアフローウィンドー〕 〔 ひさし 〕		窓部の仕様 窓面積の外壁面積比〔 %〕 ガラスの種類〔 〕 ブラインドの有無〔有・無〕 開口部の日射侵入率〔 〕												
			④ 窓部の日射遮へいに係る事項(例 庇、ルーバー等の設置) 〔 〕									3	2				
			⑤ その他の事項(例 地下の断熱効果を利用した建築物の配置計画、屋根又は外壁の二重構造) 〔 〕														
			⑥ PAL*の低減率〔 〕		(1) PAL*の値〔 MJ/m ² ・年〕 (2) PAL*の基準値〔 MJ/m ² ・年〕 〔参考〕 ※エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値(PAL*の低減率)〔 〕												
	II 再生可能エネルギーの利用	再生可能エネルギーの 直接利用	① 太陽エネルギーを利用したシステムに係る事項(例 ライトシェルフ、アトリウム、トップライト) 〔 〕			2	1				2						
			② 風を利用したシステムに係る事項(例 2方向以上への開口、開口部と換気塔との連携、開口部とアトリウム空間との連携、ナイトパージ、自動制御により開口部の開閉を行う自然換気システム) 〔 〕														
			③ パッシブソーラーシステムの利用に係る事項 〔 〕														
		④ 地中熱の利用に係る事項(例 クールトレンチ、ヒートトレンチ) 〔 〕			3	2											
		⑤ その他の事項〔 〕															
		⑥ 再生可能エネルギーの利用に伴う年間一次エネルギー消費量の低減量 エネルギー種別〔 〕 低減量〔 MJ/年〕															
再生可能エネルギーの 変換利用		① 太陽光発電設備に係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	太陽光発電による容量〔 kW〕 設置面積〔 m ² 〕	2	1					2							
		② 太陽熱を利用したシステムに係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	太陽熱利用による容量〔 kW〕 設置面積〔 m ² 〕														
		③ 地中熱を利用したシステムに係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	地中熱利用による容量〔 kW〕														
		④ バイオマスを熱源とする熱を利用したシステムに係る事項 利用の有無〔有・無〕 利用形態〔 〕	(1) バイオマスを熱源とする熱を利用した発電による容量〔 kW〕 (2) バイオマスを熱源とする熱の利用による容量〔 kW〕	3	2												
		⑤ その他の事項〔 〕	その他の再生可能エネルギー利用の仕様及び容量等〔 〕														
		⑥ 年間再生可能エネルギー利用量〔 MJ/年〕															
III 省エネルギーシステム	設備システム の省エネ ルギー	空気調和の 熱源側設備	① 設備の概要 エネルギー源(電気、都市ガス()、油()、地域冷暖房()、その他()) 機器の選定〔 〕		(1) 冷熱源の容量〔 kW〕〔 kW/m ² 〕 (2) 温熱源の容量〔 kW〕〔 kW/m ² 〕 (3) 熱源機器の構成〔 〕	1	0										
			② 設備機器のシステムの構築に係る事項(例 台数制御方式、変流量方式、大温度差方式による送水システム、利用可能エネルギーを利用したシステム、コージェネレーションシステム、燃料電池システム、蓄熱方式) 〔 〕														
		(コージェネレーションシステムを導入している場合)		(1) 発電容量、台数、発電効率〔 〕													
		③ 形式(例 エンジン、タービン、燃料電池)〔 〕		(2) 発電割合(発電容量/契約電力量)〔 %〕													
		④ 排熱利用の有無〔有・無〕 ⑤ 利用先〔 〕		(3) 排熱利用率〔 %〕 (4) 総合効率〔 %〕													

		(蓄熱方式を導入している場合) ⑥ 形式(例 水蓄熱、氷蓄熱) [] ⑦ 蓄熱槽設置場所(例 ビット利用、ユニット型) [] ⑧ その他の事項 []	(1) 蓄熱容量 [m ³] (2) 蓄熱量 [MJ] (3) ピーク負荷日の夜間移行率 []				
	空気調和の二次側設備	① 設備の概要 インテリアゾーン [] ペリメータゾーン [] ② 空気調和負荷の低減に係る事項(例 全熱交換器、外気冷房、最小外気取入れ量制御システム、居住域空気調和システム) [] ③ 送風のための動力の低減に係る事項(例 変風量方式、大温度差方式による送風システム) [] ④ その他の事項 [] ⑤ 空気調和設備の基準一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑥ 空気調和設備の設計一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑦ 想定による計算の箇所の有無 [有・無]		2		1	
	機械換気設備	① 設備機器のシステムの構築に係る事項(例 ダクトレス換気システム、換気ダクト静圧の低減化、局所換気方式) [] ② 制御のシステムの構築に係る事項(例 温度センサー又は一酸化炭素センサーによる換気量制御システム) [] ③ その他の事項 [] ④ 機械換気設備の基準一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑤ 機械換気設備の設計一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑥ 想定による計算の箇所の有無 [有・無]					2
	照明設備	① 設備機器のシステムの構築に係る事項(例 効率の優れた光源又は照明器具、省電力型安定器) [] ② 制御のシステムの構築に係る事項(例 在室検知制御システム、適正照度調整システム、昼光連動制御システム、タイムスケジュール制御システム) [] ③ その他の事項 [] ④ 照明設備の基準一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑤ 照明設備の設計一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑥ 想定による計算の箇所の有無 [有・無]					
	給湯設備	① 設備の概要 給湯方式(例 中央方式、個別方式) [] 給湯温度 [°C] ② 設備機器のシステムの構築に係る事項(例 配管及び貯湯槽の断熱仕様) [] ③ その他の事項 [] ④ 給湯設備の基準一次エネルギー消費量 [GJ/年] ⑤ 給湯設備の設計一次エネルギー消費量 [GJ/年]		3		2	
	昇降機	① 設備の概要 形式(例 ロープ式、油圧式) [] ② その他の事項 [] ③ 昇降機の基準一次エネルギー消費量 [GJ/年] ④ 昇降機の設計一次エネルギー消費量 [GJ/年]					
	エネルギー利用効率化設備	① コージェネレーションシステム [] コージェネレーションシステムによる低減量 [MJ/年] ② 太陽光発電システム [] 太陽光発電システムによる低減量 [MJ/年] ③ その他 [] その他の設備による低減量 [MJ/年]					
	全体	① 特定建築物全体の基準一次エネルギー消費量 [GJ/年] ② 特定建築物全体の設計一次エネルギー消費量 [GJ/年] ③ 設備システム全体のエネルギー利用の低減率(ERR) [] (参考) ※エネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値(ERR) []					
IV 地域における省エネルギー	地域冷暖房等	① 地域冷暖房区域の指定の有無 [有・無] ② 地域冷暖房の熱の受入れの有無 [有・無] ③ 地域冷暖房区域の名称 [] ④ ②のほか複数の建築物間で行う効率的なエネルギー利用(例 熱融通) [] ⑤ 利用可能エネルギーを利用したシステム(例 下水処理水、ビル排熱、地下鉄排熱) [] ⑥ 契約容量 蒸気 [kW] 温水 [kW] 冷水 [kW] ⑦ 地域エネルギー供給事業者から受け入れる熱のエネルギー効率の値 []		2		1	2
				3		2	
	最適運用のための計量及びエネルギー管理システム	① 評価の対象となる熱源方式(中央熱源・個別熱源)		1		0	
		② ガス、電力及び冷温熱のエネルギーの量の計量設備の系統別の設置に係る事項 [・全体、エネルギー種別計測・エネルギー用途別計測・エネルギー系統別計測・特定機器・フロア単位] []		2		1	
		③ BEMSの導入に係る事項 [データ採取、タイムプログラム等基本的制御、監視の導入 維持管理、応用的制御、エネルギー消費分析及び管理] []		3		2	
		④ その他の運用上の事項 []					

V 効率的な運用の仕組	最適運用のための運転調整と性能の把握	① 年間一次エネルギー消費量の予測値 [MJ/m ²] 予測値の設定方法(例 過去の実績) [] ② 特定建築物の運用計画に基づく建築設備の稼働条件 年間稼働日数 [日/年] 日平均稼働時間 [h/日] 単位面積当たりの照明・コンセント設備の負荷 [W/m ²] 熱源側設備等の全負荷相当運転時間 [h/年] その他の事項 []	2		1	2
		③ 年間一次エネルギー消費量の予測及び実測を行う旨の委託契約書等への明記 [有・無] ④ 空気調和設備及び機械換気設備の年間一次エネルギー消費量の予測及び実測の計画 [有・無] ⑤ 次の設備におけるエネルギー利用の効率の算定の計画の有無に係る事項 熱源設備のエネルギー消費効率 [有・無] 対象機器 [] 範囲 [] 熱源機器のエネルギー消費効率 [有・無] 対象機器 [] 範囲 [] 熱源機器の負荷率 [有・無] 対象機器 [] 範囲 [] 冷温水又は冷却水を搬送する設備の水搬送効率 [有・無] 対象機器 [] 範囲 [] 空気調和機設備における空気搬送効率 [有・無] 対象機器 [] 範囲 [] 全熱交換器における熱交換効率 [有・無] 対象機器 [] 範囲 [] ⑥ その他の設備におけるエネルギーの使用の合理化に関する性能の把握に係る調査 [] ⑦ 設備機器及び制御機器の運転及び調整に関する事項並びに空気調和設備及び機械換気設備における年間一次エネルギー消費量の予測及び実測を行う旨の委託仕様書等への明記 [有・無] (1) 調整を行う時期及び実施箇所 [] (2) 調整を行う設備機器 [] (3) 調整の方法の概要 []	3		2	
VI エコマテリアル	再生骨材等利用	① 再生骨材等を利用したコンクリート等の使用の有無 [有・無] ② ①の利用部位(例 捨てコンクリート、工作物に用いられる現場打ちコンクリート又はコンクリート製品) [] ③ 再生骨材等の種類 [再生骨材・その他()]	2		1	1
	混合セメント等利用	① 混合セメント等の利用の有無 [有・無] ② ①の種別 [高炉B種・高炉C種・フライアッシュB種・フライアッシュC種・その他()] ③ ①の利用部位 []	2		1	1
	リサイクル鋼材利用	① リサイクル鋼材の利用の有無 [有・無] ② ①の構造用材料への利用の程度 [大半の部位に利用・特定の部位に利用] ③ ①の利用部位 []	2		1	()
	エコマテリアル利用(再生骨材等利用、混合セメント等利用及びリサイクル鋼材利用を除く。)	[] [] []	/			
VII オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制	断熱材用発泡剤	① 主として使用する断熱材の種類(例 硬質ウレタンフォーム、フェノールフォーム) [] ② ①の利用部位 [] ③ ①のうち、発泡剤を利用している断熱材の有無 [有・無] ④ 発泡剤の種類 [] (1) オゾン層破壊係数 [] (2) 地球温暖化係数 []	2		1	2
	空気調和設備用冷媒	採用した空気調和設備の冷媒の種類 [] 利用場所 [] (1) 冷媒の量 [kg] (2) オゾン層破壊係数 [] (3) 地球温暖化係数 [] 採用した空気調和設備の冷媒の種類 [] 利用場所 [] (1) 冷媒の量 [kg] (2) オゾン層破壊係数 [] (3) 地球温暖化係数 []	2		1	
資源の適正利用	VIII 長寿命化等	① 維持管理の容易性に係る事項(例 設備のための維持管理のルート又はスペースの確保、設備の集約化及び予備スペースの確保、設備機器更新の容易性の確保) [] []	2		1	2
		② 更新、改修、用途の変更への対応に係る事項(例 階高、設計荷重、モジュール化) [] (1) 階高(基準階部分) [m] [] (2) 天井高(基準階部分) [m] [] (3) OAフロア高(基準階部分) [cm] [] (4) 設計荷重(基準階部分) [N/m ²]	3		2	
		I 鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 ① 水セメント比に係る事項 [%以下] ② かぶり厚さに係る事項 [] ③ 躯体の保護に係る事項(例 モルタル塗り、タイル貼り) []	2		1	()

			II I以外の構造の場合 く ① 躯体の耐久性の向上に係る事項 〔 〕		/			
		短寿命建築物の建設資 材の再使用対策等	① 構造材の再使用及び再生利用に係る事項〔 〕 ② 内装材及び外装材の再使用又は再生利用に係る事項 〔 〕	2		1		()
	IX 水循環	雑用水利用	① 雑用水の利用の有無〔有・無〕 ② 雑用水の利用方式〔個別循環・地区循環・広域循環・工業用水利用・雨水利用〕 ③ 広域循環方式による再生水の供給区域の内外〔内・外〕供給エリア名〔 〕 ④ 原水種別(個別循環方式、地区循環方式又は雨水利用方式の場合) 〔洗面所及び給湯室排水・冷却水・厨房排水・プール排水・雨水・その他() 〕 ⑤ 利用先〔便所洗浄水・散水用水・修景用水・その他() 〕	(個別循環方式、地区循環方式又は雨水利用方式の場合) 〔 〕 (1) 処理方式〔 〕 (2) 計画水量〔 m ³ /日〕 (雨水利用の場合のみ) (3) 貯留槽(沈砂槽を含む。)容量〔 m ³ 集水面積〔 m ² 〕	2		1	()
自然環境 の保全	IX 水循環	雨水浸透	① 敷地の状況(例 地形、地質、地下水位) 〔 〕 ② 雨水浸透の方法〔雨水浸透ます・雨水浸透トレンチ・浸水性舗装・地表面の緑地化・その他() 〕	(1) 雨水浸透量〔 m ³ 〕 (2) 雨水浸透の能力〔 mm/時〕	2		1	()
	X 緑化	緑の量の確保	① 地上部における樹木の植栽等に係る事項 〔 〕	(1) 地上部の樹木の植栽等のなされた部分の面積(A)〔 m ² 〕 (2) 建築物上の樹木、芝、草花等の植栽のなされた部分の面積(B)〔 m ² 〕	2		1	2
			② 建築物上における樹木、芝、草花等の植栽に係る事項 〔 〕	(3) 総緑化面積(A+B)〔 m ² 〕 (4) 敷地面積(C)〔 m ² 〕 (5) 総緑化面積の敷地面積に対する割合((A+B)/C)〔 %〕	3		2	
		緑の質の確保	① 建築物上における樹木の量の確保に係る事項 〔 〕	(1) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積(D)〔 m ² 〕 (2) 点数〔 点〕 (3) 建築物上の緑化面積(E)〔 m ² 〕 (4) 建築物上の樹木の植栽のなされた部分の面積の建築物上の緑化面積に対する割合(D/E)〔 %〕	2		1	2
			② 高木の植栽に係る事項 〔 〕	(1) 高木の植栽のなされた部分の緑化面積(F)〔 m ² 〕 (2) 点数〔 点〕 (3) 高木の植栽のなされた部分の面積の総緑化面積に対する割合(F/(A+B))〔 %〕 (4) 5mを超える高木の植栽の有無〔有・無〕	3		2	
			③ 既存の樹木の保全に係る事項 〔 〕	(1) 既存の樹木の植栽のなされた部分の面積〔 m ² 〕 (2) 点数〔 点〕 (3) 幹周り1m以上の大径木の保存の有無〔有・無〕				
			④ 合計点〔 点〕					
		動植物の生息・生育環 境への配慮	〔 〕 〔 〕 〔 〕	/				
		連続した緑の形成	〔 〕 〔 〕 〔 〕	/				
		樹木・芝・草花等の維持 管理への配慮	〔 〕 〔 〕 〔 〕	/				
ヒートアイラ ンド現象の 緩和	X I ヒートアイラ ンド現象の 緩和	建築設備からの人工排 熱対策	建築設備からの人工排熱の低減に係る事項 〔 〕	(1) 延べ面積当たりの1日の人工排熱の顕熱量〔 MJ/m ² 日〕 (2) 延べ面積当たりの1日の人工排熱の全熱量〔 MJ/m ² 日〕	1 2		0 1	()
		敷地と建築物の被覆対 策	敷地と建築物の被覆の改善に係る事項 〔 〕 〔 〕	(1) 緑地による対策評価面積(G)〔 m ² 〕 (2) 水面による対策評価面積(H)〔 m ² 〕 (3) 保水性被覆材による対策評価面積(I)〔 m ² 〕 (4) 高反射率被覆材による対策評価面積(J)〔 m ² 〕 (5) 総対策評価面積(G+H+I+J)〔 m ² 〕 (6) 敷地面積(C)〔 m ² 〕 (7) 総対策評価面積の敷地面積に対する割合(G+H+I+J)/C)〔 %〕	2 3		1 2	2
		風環境への配慮	望ましい風環境の確保を図るために行う建築物の形状及び配置に係る事項 〔 〕 〔 〕	(1) 見付幅(K)〔 m〕 (2) 夏の主風向に直交する最大敷地幅(L)〔 m〕 (3) 見付幅比(K/L)〔 〕 (4) 夏の主風向に直交する最大空地幅(M)〔 m〕 (5) 最大高さ(N)〔 m〕 (6) 最大空地幅比(M/N)〔 〕	2		1	1

備考 1 取組状況の欄中「〔 〕」には該当する事項に○印又は必要事項を記載すること。

2 詳細(容量、仕様、規模等)の欄中△印の欄には、判断基準別表第1の(は)欄から(と)欄までに定める当該特定建築物の用途に相当する数値を記載すること。

3 取組状況の評価の欄中適合状況の欄には、評価基準に適合している場合に、○印を記載するとともに、評点の欄には、区分ごとの配点の合計を記載すること。また、当該基準の適用がない場合は適合状況の欄に「適用しない」と記載し、別表第3に掲げる細区分について当該基準による評価を行わない場合は、「評価を行わない」と記載すること。

4 最高点の欄中「()」には、当該特定建築物で想定される最高点を記載すること。

5 ※の記載は、条例第17条の4の規定によるエネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値を設定すべき場合に限る。

第2 環境への配慮のための措置の概要

--	--

備考 設計上の基本方針、維持管理計画、設計及び維持管理計画上の制約等、特に配慮した事項を記載すること。

第3 棒グラフによる環境配慮の措置の評価

評点 グラフ表示 最高点

区分	評価項目	評価内容	評点	グラフ表示	最高点
I	建築物の熱負荷の低減	建築物の形状・配置 外壁・屋根の断熱 窓部の熱負荷の低減	()点	()	()
		再生可能エネルギーの直接利用	()点	()	()
II	再生可能エネルギーの利用	再生可能エネルギーの変換利用	()点	()	()
		再生可能エネルギーの直接利用	()点	()	()
III	省エネルギーシステム	設備システムの省エネルギー	()点	()	()
IV	地域における省エネルギー	地域冷暖房等	()点	()	()
V	効率的な運用の仕組み	最適運用のための計量及びエネルギー管理システム	()点	()	()
		最適運用のための運転調整と性能の把握	()点	()	()
VI	エコマテリアル	再生骨材等利用	()点	()	()
		混合セメント等利用	()点	()	()
		リサイクル鋼材利用	()点	()	()
VII	オゾン層の保護及び地球温暖化の抑制	断熱材用発泡剤	()点	()	()
		空調設備用冷媒	()点	()	()
VIII	長寿命化等	維持管理、更新、改修、用途の変更等の自由度の確保	()点	()	()
		躯体の劣化対策	()点	()	()
		短寿命建築物の建設資材の再使用対策等	()点	()	()
IX	水循環	雑用水利用	()点	()	()
		雨水浸透	()点	()	()
X	緑化	緑の量の確保	()点	()	()
		緑の質の確保	()点	()	()
X I	ヒートアイランド現象の緩和	建築設備からの人工排熱対策	()点	()	()
		敷地と建築物の被覆対策	()点	()	()
		風環境への配慮	()点	()	()

備考「評点」及び「最高点」の部分には、それぞれ、第1の「区分」の欄中 I から X I までごとの「評価」の欄に掲げる評点及び最高点を表示し、当該最高点に対する当該評点の割合に応じて、「グラフ表示」の部分に棒グラフを表示すること。ただし、当該基準の適用がない場合は「適用なし」と表示し、0点の場合は棒グラフを表示しないこと。